


平成 30 年度 研究サマリー

研究会名称	腎泌尿器癌研究会	
代表者所属	東京女子医科大学 泌尿器科	
代表者氏名	田邊 一成	印 
研究方法・結果	<p>本研究会は、腎不全・腎泌尿器科疾患において、より高度な内容の診療、研究を行い、同時に将来を担う世界で活躍できる人材の育成を行うことを目的としている。全国及び諸外国から当科での研修、研究を希望する多数の医師やメディカルスタッフに対し、教育・研究指導を行っており、その中でも腎移植に関しては、多くの知見を国内のみならず世界に向けて、継続的に発信している。</p> <p>これまでの腎移植の実態は、主として欧米より報告される無作為比較試験や観察研究からもたらされるものであり、日本人腎移植患者における実態や新規開発された免疫抑制薬がどのように日本人腎移植患者に影響を与えるかは明らかではなかった。実際、腎移植に使用される承認薬、その使用量などは欧米とわが国で異なる。また、これまでの報告では医師や各施設の処方に基づいた検討であったが、腎移植のように生涯に渡り免疫抑制剤を服用する患者は例えば感染症を合併した時期に代謝拮抗薬などを適宜調整している可能性がある。加えて、短期的なアウトカムのみならず手術や日常生活動作、生活の質など長期的なアウトカムも見据えた診療が必要である。</p> <p>昨年度の本研究サマリーで報告した多施設共同試験 JACK (Japan Academic Consortium of Kidney Transplantation) もこれまでの後ろ向きでのデータベースの構築は終了し、2018年4月より今後前向きに10年にデータを積み上げていく JACK-II へと発展させている。</p> <p>この JACK cohort を用いて、日本人腎移植患者の疫学調査や観察研究を行っており、2018年度も国内・国外学会でその成果を発表し、6編の英文誌(内4編を研究成果に記載)を公表した。今後、この JACK-II の付随研究としての種々の研究を拡大していく予定である。</p>	
研究成果(論文、学会発表、雑誌掲載等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. Outcome of the risk-stratified desensitization protocol in donor-specific antibody-positive living kidney transplant recipients: a retrospective study. Okada D Okumi M, et al. Transpl Int. 2018 Apr 20. doi: 10.1111/tri.13269 2. Clinicopathological study of de novo membranous nephropathy of 'stage 0' after kidney transplantation. Katsuma A, et al. Nephrology (Carlton). 2018 Jul;23 Suppl 2:63-69. 3. Long-term survival in Japanese renal transplant recipients with Alport syndrome: a retrospective study. Katsuma A, et al. BMC Nephrol. 2018 Oct 3;19(1):249. 4. Kidney transplantation for treatment of end-stage kidney disease after haematopoietic stem cell transplantation: case series and literature review. Tsuchimoto A, et al. Clin Exp Nephrol. 2019 Apr;23(4):561-568. 	